

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	タスク・アンビエント空調設計 WG	主 査 名：田辺新一
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会(建築設備小委員会)	委員長名：鉾井修一(石野久彌)
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	タスク・アンビエント空調システムを実建物へ導入するために必要となる設計ガイドラインを作成するため、省エネルギー性、生産性を考慮した研究、情報収集を進める。	
委員構成 (委員名(所属))	大学の研究者の他、設計事務所、総合建築業、設備業、メーカーの委員により構成されることで、研究、実務、製造等のそれぞれの立場からの専門的な知見、情報を集積し検討を行っている。	
設置 WG (WG 名：目的)		
2004 年度予算	80,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年度に 4 回、2004 年度に 5 回の会議を召集し、WG としての活動を行った。毎回全委員の 8 割以上が参加した。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)
	WG 会議では、建築設備小委員会の報告のほか、毎回複数委員によるタスク・アンビエント空調システムの研究開発に関する成果報告を行い、議論を行った。関連する技術テーマとして、トータルシステム研究所 北原氏を招いて「エアコンの省エネ化と湿度に関連した問題」と題し、高効率エアコンの除湿不足の問題、再熱除湿運転による電力多消費の問題等を解説していただいた。また、日建設計、清水建設技研、竹中工務店の新社屋施設見学を兼ねた会議を実施し、先端技術の確認を行った。ホームページによる情報発信も行った。2003 年度は大会オーガナイズドセッションを企画し、9 編の研究発表があった。2004 年度には「次世代の空調を考える - 環境選択型空調の可能性」という公開シンポジウムを開催した。
委員会 HP アドレス：	http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s5/WGlinks/TA/
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)
	所期の予定通り、タスク・アンビエント空調システムの省エネルギー性、生産性を考慮した研究、情報収集を進めた。
その他評価すべき事項	大会では WG 内外からのタスク・アンビエント空調関連の研究発表が多数あり、当該技術の普及啓蒙の一翼を担うことができた。